

先週土曜日の朝、カーテンを開けた瞬間、一面に広がる“銀世界”に驚かれた方も多かったのではないのでしょうか？！夜のうちに降り積もった雪の上に、まだ散りきらめ紅葉の葉が舞い降り、白と赤のコントラストが街を包みます…季節は静かに冬へと歩を進めています。体調を崩す子が増えてきました。お家でも体調管理には十分気を付けましょう！



♡♡♡ご協力に感謝します♡♡♡

先週6日に今年生活発表会で使用する衣装作りのお手伝いをいただける保護者の方にお集まりいただきました。以前は、こうした衣装作りは教師達が夜遅くまで残って行っていました。“子ども達のために…”という思いで頑張りながらも、家に仕事を持ち帰る日々が続くこともありました。そんな中、近年保護者の皆さんが力を貸して下さることで、教師達はずいぶん救われています。お裁縫が得意な方も、久しぶりに針を持った方も、一つの衣装を丁寧に仕上げ下さる温かな支えに感謝の気持ちでいっぱいです。お手伝い下さる保護者の方の支えに、教師達も子ども一人ひとりに向き合う時間と心の余裕を持つことができます。衣装の出来栄はもちろんですが、その一针一針の優しさが、子ども達の舞台の輝きに繋がっていくように思います。お忙しい中でのご協力、本当にありがとうございます。当日の舞台で、子ども達が輝く姿をぜひ楽しみにして下さい。



月々月ハンガーの用意をお願いします月々月

12月1日(月)より冬の制帽(毛糸帽子)とジャンパーを着用しての登園となります。
(*幼稚園指定のフリースでも可)
それに伴い、11月28日(金)までに「ハンガー1本」をお子さんに持たせて下さい。
(*つばみくみのお子さんは幼稚園で準備するのでハンガーの準備は不要です)
ハンガーのイメージ画像をCODOMON「資料室」に添付してあります。参照して下さい。

- 注1) 針金ハンガーは禁止です。
- 注2) 華やかな装飾はしないで下さい。
- 注3) 子ども用ではなく大人用をご用意下さい。
- 注4) 必ず名前を付けて下さい。
- 注5) 手袋は紛失することがあります。ジャンパーに紐を通して付けて下さい。
- 注6) マフラー・ネックウォーマーは、バス停・玄関で持ち帰り降園時に再度お持ち下さい。



幸せを感じる力～子どもと共に育てる心の感性～

人は誰でも「幸せを感じる能力」を持っています。それは特別な才能ではなく、生まれた時から備わっている心の働きです。朝の光を心地良いと感じたり、子どもの笑顔に自然と頬がゆるむとき、その瞬間こそが「幸せを感じる能力」が動いている証なのです。

けれども私たちは同時に「不満」や「不安」を感じる心も持っています。それ自体は悪いものではありません。不安があるからこそ備えようとするし、不満があるからこそ改善しようとする。でも、この二つの心のバランスを失うと、日々の中で“幸せを感じる力”が少しずつ鈍ってしまいます。

幸せは「起こる」ものではなく「感じ取る」もの

誰もが「幸せになりたい!」と願いますね。でも、幸せはどこから“やって来る”ものではありません。それは、自分の内側で“感じ取る”ものです。“幸せを感じる能力”とは、目の前の出来事に「どう意味付けをするか!？」という力でもあります。その感度を磨くには、意識して使う必要があります。感謝の言葉を口に出すとか、自然の美しさに目を留めるとか、子どもの成長に「凄いね!」と素直に驚くとか…そうした日々の小さな瞬間が、この能力を少しずつ伸ばしていくことになるのです。

幸せを遠ざける「不満の習慣」

人は誰でも、自分の外側に原因を探す癖を持っています。「〇〇がもっと協力してくれたら…」「職場が理解してくれれば…」「子どもが言うことを聞いてくれれば…」そんなふうに考えてしまうのは自然なことです。外にばかり原因を求めているうちは、幸せを“自分の手”でつかむことはできません。なぜなら「他人が変わらなければ幸せになれない!」と心の中で決めてしまっているからかもしれません。

ぶつぶつと文句を言いながら過ごす時間は、実は“幸せを感じる筋肉”を少しずつ弱らせているのです。それは筋トレを怠けると同じで、使わなければ衰えてしまいますよね。

子どもは「親の感情の鏡」

子どもは親の言葉よりも、親の表情や雰囲気から多くを学び取ります。親が「なんで」「どうして」「もうイヤ」とため息をつく姿は、そのまま「不満を感じる練習」になってしまいますよ。逆に、親が「大変だけど、まあなんとかなるね」と笑う姿は、「幸せを感じる練習」になります。子どもは親の背中を通して“どうやって心を使うか”を学んでいくのです。

つまり、幸せを感じる能力を伸ばす最初の先生は、他ならぬ大人…お父さんお母さんです。親が自分の中の幸せを感じ取れるようになると、子どもも自然とその感度を受け取って育ちます。

幸せとは、努力によって磨かれる力で、物事を「ありがたい」と感じるには、その裏にある誰かの働きや時間を想像する必要があります。それは「感じる努力」であり、「見えないものを見る力」でもあります。

「幸せを感じる力」は、未来を生き抜くための大切な“心の筋力”でもあります。

不満を数えるより、感謝を数える。

愚痴を言うより、笑いを共有する。その選択を重ねることで、人生は少しずつ明るくなります。

今年遠征を迎えた園長…この歳になって強く感じるのは「もっと若いときにこの“教え”に巡り会いたかった」ということです。